

事務事業名 **こどもショートステイ**

区分	No	名称
章	1	やさしさと共生するまち
節	1	安心して子どもを生み育てられるまちをつくる
施策	1	子育ての不安と負担の軽減
小分類	4	経済的負担の軽減の支援
主要な施策	1	医療費、保育料、教育費等の支援
事務事業番号	002	事業開始年度 平成 14 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	保健福祉部	グループ名	子育てG
-----	-------	-------	------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	一時的に養育が困難となった保護者に代わって児童を養育することにより、児童の健全育成を図ることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	保護者の疾病等の特別な事情により家庭での養育が一時的に困難となった児童を、児童養護施設で養育する。 委託先：社会福祉法人 室蘭言泉学園
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	緊急時の児童等の受け入れ態勢を保護者、施設と連携を図っていく。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	児童福祉法、登別市こどもショートステイ事業実施要綱

事業費（財源内訳）の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称 子育て支援対策交付金（H22まで次世代交付金）	千円	6	0	130	130	130
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円		0	34	34	34
事業費 合計			6	0	164	164	164

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	措置人数	人	目標値	3	3	3	3	3
			実績値	1	0			
			目標値					
			実績値					

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
<p>登別市において児童養護施設が無く近隣の室蘭市にある施設に委託する状況となっている。</p>	<p>子育て支援の一貫として、いつでも利用が可能となるよう委託を継続していきたい。</p>	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可）			《Check》
1. 事務事業の妥当性について			
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見	市町村が実施する子育て支援事業の一つで、次世代育成支援施策交付金の対象事業である。
	民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である		
	国、道、他団体等との連携や広域化が可能である		
	国、道、民間等の事業と重複・類似している		
2. 事務事業の必要性について			
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見	子育て支援事業の中で重要な役割を果たすため必要性の高い事業と考える。
	市民アンケートの結果から必要性が高い		
	社会情勢、地域事情等から必要性が高い		
	市民の大部分が関連することから必要性が高い		
3. 事務事業の効率性について			
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見	本事業は、委託契約に基づくもので削減は難しい。
	市で実施するほうが民間委託より効率性が高い		
	多額の経費や労力を要するがやむを得ない		
	将来的に効率性を向上できる		
4. 事務事業の成果について			
目的を達成するための成果はあがっていますか？	成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見	成果を求める性質の事業ではないと考える。
	市民、団体等の声から成果を感じられる		
	目に見える形で成果があがっている		
	成果の把握は困難である		

担当グループによる評価			《Check》
維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	市町村が実施する子育て支援事業で、利用数は少ないが、児童の養育が一時的に困難になった際の支援策として、事業は維持すべきと考える。	

行政評価会議による評価			《Check》
維持	備考		